

横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行警報が発令されました。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

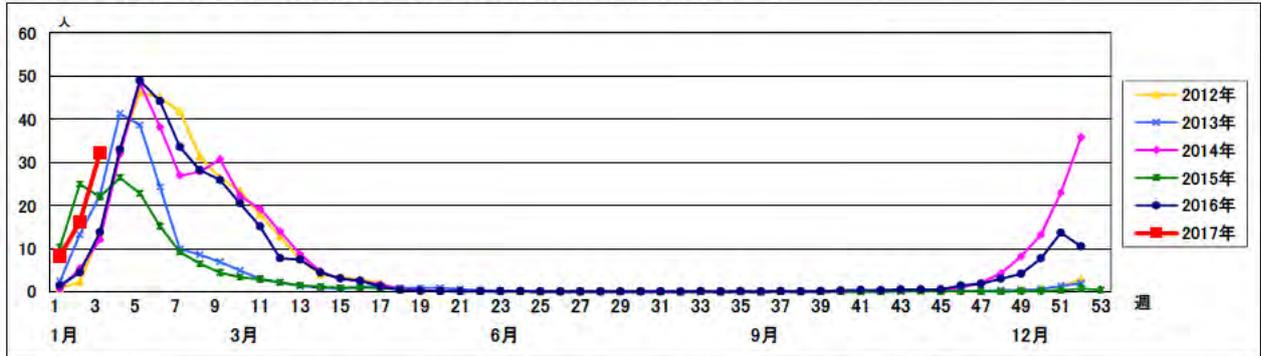
腸管出血性大腸菌感染症	3件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
デング熱	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
アメーバ赤痢	7件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	9件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	破傷風	1件
急性脳炎	2件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が2件(うち1件は無症状病原体保有者)、O26の報告が1件ありました。
- 2 デング熱: 3件の報告があり、1件はタイ、2件はフィリピンでの蚊からの感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 3件の肺炎型の報告がありました。
- 4 アメーバ赤痢: 7件の報告(腸管アメーバ症6件、腸管外アメーバ症1件)がありました。感染経路は、国内での性的接触が2件(異性間1件、詳細不明1件)、国内での経口感染が2件、タイでの経口または同性間性的接触が1件で、感染経路等不明が2件でした。
- 5 ウイルス性肝炎: 1件のC型の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎: 2件の報告があり、病原体不明の幼児が1件、迅速キットでインフルエンザAが判明している30歳代が1件でした。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 家族性CJDの報告が1件ありました。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件が報告され、うち1件がG群で、1件は不明でした。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも性的接触によるもので、AIDSの報告が1件(同性間)、無症状病原体保有者の報告が3件(異性間2件、同性間1件)ありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 14件の報告があり、うち2件の幼児についてはワクチン接種歴が確認されました。12件(30～90歳代)では4件がワクチン接種歴を確認できましたが、8件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 12 梅毒: 9件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性7件、女性2件でした。感染経路は、異性間性的接触が4件、同性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が4件でした。
- 13 破傷風: 1件の報告があり、感染経路等不明です。ワクチン接種歴は確認できませんでした。

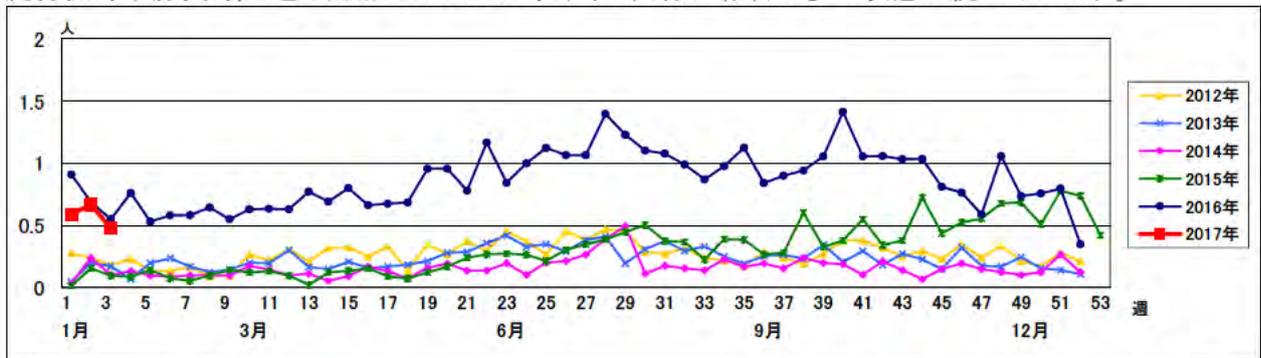
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第51週	12月19日～12月25日
第52週	12月26日～1月1日
第1週	1月2日～1月8日
第2週	1月9日～1月15日
第3週	1月16日～1月22日

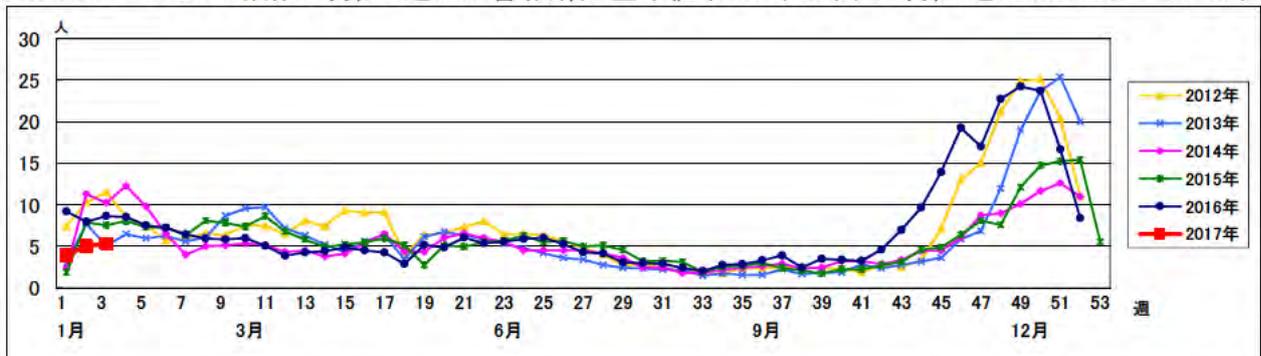
1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.39にて流行入り、第51週で13.67にて注意報発令、第3週で32.23にて警報発令となりました。



2 流行性耳下腺炎: 第3週で定点あたり0.48と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



3 感染性胃腸炎: 第48週で定点あたり22.73となり、例年に比べて早く警報発令されました。第49週の24.24をピークとして漸減し、第52週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第3週は5.31となっています。



4 性感染症: 12月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が21件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が7件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が0件でした。

5 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第51週0.75、第52週0.00、第1週0.50、第2週1.00、第3週0.33と報告されています。インフルエンザによる入院は第51週4.25、第52週3.67、第1週3.50、第2週3.75、第3週5.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第51週0.00、第52週0.00、第1週0.25、第2週0.33、第3週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報: 12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が5件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が1件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点24件、眼科定点1件、基幹定点6件でした。

2月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株51件と遺伝子9件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	ア デ ノ 感 染 症 *2	感 染 性 胃 腸 炎	そ の 他 症 例
インフルエンザ AH3型	2	1	43 1			1
インフルエンザ B型ビクトリア系統			2			
アデノ 1型				1		
アデノ 3型	1					
RS		1				
ヒトメタニューモ		2	1			
ヒトコロナ*3		1				
ライノ		1				
ロタ					2	
合計	3	1 5	45 2	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月の感染性胃腸炎は、基幹定点から6件、その他が6件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H-,VT2、O26:H11,VT1、O型別不能:H+,VT1&2)と腸管凝集性大腸菌(O126:H27,aggR)およびサルモネラ属菌(*Salmonella* Schwarzengrund、*Salmonella* Agonaが2件ずつ)が検出されました。

その他の感染症は、基幹定点から2件、その他からが12件でした。その他のB群溶血性レンサ球菌の2株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は*Legionella pneumophila* 1群、肺炎球菌は2件とも15Aでした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

感染性胃腸炎							
検査年月 定点の区別 件数	1月			2017年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
菌種名							
腸管出血性大腸菌		1	3		1	3	
腸管凝集性大腸菌		1			1		
サルモネラ属菌		2	2		2	2	
不検出	0	2	1	0	2	1	
その他の感染症							
検査年月 定点の区別 件数	1月			2017年1月			
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
菌種名							
B群溶血性レンサ球菌			2			2	
レジオネラ属菌			1			1	
肺炎球菌			2			2	
結核菌			1			1	
その他		2	4		2	4	
不検出	0	0	2	0	0	2	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】